

## 新屋表町通り「参加型景観づくり」の取組

秋田県秋田市

- 町家の利活用デザインコンペとワークショップ
- 地域資源マップの作成
- 住民参加型ライトアップ実験

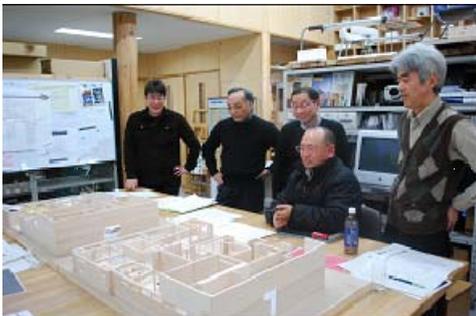
概要	<p>新屋表町通りは、伝統的な町家が多く残り、秋田市の中でも歴史的なまちなみを残すのはこの通りのみとなっている。しかし、地域商業の衰退、通りの景観変化などかつての活況や面影が失われつつある。このような状況から、市が地元短大と住民と話し合い、平成18年度から学・官支援のもと、地域の関係者が集まり、「歴史・生活・元気」の再生を理念に地域資源を活かした各種活動に取り組んでいる。</p> <p>本事業は、こうした背景をふまえ「古建築の保全と活用」「地域資源の掘り起こしと価値の再認識」「住民のまちづくりへの参加」を視点に景観まちづくりのさらなる推進を図り、地域の魅力向上と競争力を高め、交流人口の拡大による活性化を図ることを目的としている。</p>
実施内容	<p><b>【町家の利活用デザインコンペとワークショップ】</b></p> <p>(1)町家の利活用デザインコンペ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内建築系学生を対象としたデザインコンペを開催。応募数42名、49作品。</li> <li>・公開審査会を開催し、最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞5点決定。</li> </ul> <p>① (2)学官民専門家ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4回のワークショップを開催。(コンペ入賞者3名を含む)</li> <li>・デザインコンペ入賞作品を踏まえ、保存方策等を検討し、利活用案2案にまとめる。</li> </ul> <p><b>【地域資源マップの作成】</b></p> <p>(1)あるもの探しワークショップとあらやマップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを4回開催し、延べ42名の参加。</li> <li>・景観や歴史・文化などの地域資源を紹介するあらやマップを作成。</li> </ul> <p>② (2)空き店舗マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源として地域内外へ紹介することを目的に空き店舗マップを作成。</li> <li>・利用可能な空き店舗物件を追加できる立体マップを製作。</li> </ul> <p>(3)まちづくりセッションの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野で活躍する講師を招き、3回の開催で延べ90名の参加。</li> </ul> <p><b>【住民参加型ライトアップ実験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照射実験、2回実施。</li> <li>・地域内外の交流と地域資源の再確認のため、他地域イベントへの参加。</li> </ul> <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新屋表町通りの登録有形文化財を中心にライトアップを実施。</li> <li>・NPO法人主催の写真コンテストの実施。</li> </ul> <p><b>【参画ケイカンの開催】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取組の過程と成果を周知し、景観まちづくりへの関心を高めるため、通り沿いの空き家・空き店舗を会場にパネルや模型等の成果物を展示。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の空き家・空き店舗の利活用を視野に入れた実験的取組として実施し、延べ2,501名の参加があった。</li> </ul>
取組の成果	<p>「景観まちづくりのさらなる推進」「地域の魅力向上」「交流人口の拡大による活性化」を目的に様々な取組を実施し、特に学官連携の拡大や取組を通じての交流により生まれたつながり(Relation)は、今後の景観まちづくりの推進に多大に寄与するものと考えている。また、民間企業協賛の確保やイベント実施効果の検証は、今後の展開を模索するうえで大きな成果となったといえる。</p>
今後の課題	<p>今回取組は、国の委託事業による潤沢な資金を得ての活動であり、慢性的な資金不足という地域の問題点は依然として抱えたままである。</p> <p>「参画ケイカン」においては、延べ2,501人の集客があったものの、新屋表町通りには開店している店舗が少ないため経済的な相乗効果は余り見られなかった。この集客数と経済効果の乖離は、今後、商店会との連携を深めるなど解決していく必要がある。また、今後の地域づくりを推進するためには、多くの賛同を得ながらNPO法人の活動を成長させていくことが必要である。</p>

今後の展開	取組を通じ、実施体制の確立など住民参加や価値の再認識のためのツール、手法が概ね整備され、ライトアップにおいては、企業協賛による道筋がつけられた。今回取組で生まれたつながり(Relation)は、今後の連携による取組を実施可能なものとし、費用面の効率化も期待できる。また、集客と経済効果の乖離を解消するための方策として、空き店舗の活用をはじめ、地域ブランドを確立し、新たな商品開発・地域コミュニティビジネスの開発が資金不足の解消をもたらすものであり、早急な取組が望まれる。今後、今回の取組の成果を有効に活用し、NPO法人と地域が連携を図ることで、新屋表町通りの景観まちづくりのさらなる推進が期待されるものである。
市町村名	秋田県秋田市
部局／担当者名	都市整備部都市計画課／加賀谷・伊藤
連絡先	TEL : 018-866-2152
リンク	<a href="http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/kikaku/keikan/araya/default.htm">http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/kikaku/keikan/araya/default.htm</a>

(写真又は図)



【デザインコンペ審査会】



【学官民専門家ワークショップ】

取組①の写真



【第1回ワークショップ現地調査】



【まちづくりセッション】

取組②の写真



【ライトアップ実験】

取組③の写真



【参画ケイカン】

取組④の写真